



ベスビオ火山の切手

P. Q.

日本とならんで火山国ははずのイタリアに火山の切手が1枚もないのは奇妙な現象である。ここにとり上げたベスビオ火山(Vesuvio)の切手はサンマリノとルアンダの切手である。サンマリノはイタリアにとり囲まれた38平方マイル人口17,000人の小さな共和国である。イタリアが1861年にサヴォイ家によって統一されるまで各地に分裂国家があつてそれぞれ切手を発行していた。ナポリは当時ナポリ王国といつて1858年に最初の切手を発行した。サンマリノはその統一以前の国家の切手発行100年記念シリーズを発行しているがナポリ王国の切手発行100年を記念して2種を1958年11月8日に発行した。左肩に当時最初の切手を中央にナポリとベスビオ火山が画かれている。一方ルアンダは1967年4月にナポリで開かれた第7回ヨーロッパ切手展を記念して小型シート2種を発行した。他にセネガルも1970年に発行した。

ベスビオ火山はナポリ湾の奥にあつて海拔約1,280mであり広い裾野を引いた成層火山である。この火山の生成は数千年から1万年前にさかのぼると考えられるが紀元前800年頃に原住民のエトルリア人を追ってギリシアのイオニア人がベスビオの東南麓のポンペイに都市を建設しやがてローマに征服された頃は火山活動はまったく休止しておりこの山が火山であることは完全に気づかれなかつた。山の頂きまでブドウ畑に覆われ紀元前73年にスパルタクス反乱軍は山頂の火口内にたてこもつたほどである。

ポンペイが首都ローマの保養と観光の町として繁栄を極めていた63年2月最初の衝撃がこの町を襲い一瞬のうちに神殿劇場列柱を破壊してしまつた。これが79年の破局の前徴だつた。恐怖から逃れた市民は気を取り直し復興に努め15年後には以前に勝る繁栄をとりもどしたがついに運命の79年が

やつて来た。

79年8月20日から地震が起こり24日には山頂の火口が爆発し火山灰と軽石が空中高く噴き上げられ風下にあつたポンペイは有毒ガスのために全滅し厚さ数mの軽石によって埋められ両方とも人々の記憶から忘れ去られよみがえるには約1,800年を必要とした。この噴火は小プリニウス(Plinius)によって詳細に報告されこれが最古の火山噴火の観察記録であるといわれている。79年の噴火のように大量の火山灰や軽石を噴出する噴火形式をプリニアン型噴火と呼ぶのはこの名前をとつたものである。

この大噴火によってベスビオ火山の頂上には大きな火口が生じその後約1,500年間活動はほとんど行なわれなかつた。火口の縁はモンテソンマと呼ばれソンマはその後一般に火山の外輪山を指すようになった。1631年に火山活動は再開されその後現在までほとんど連続的に活動しているがこの噴火活動はかなり規則的である。すなわち

- ① 新しい溶岩が少しずつ噴出され火口底に小さな丘を作り丘が成長すると共に火口が埋め立てられる。この期間は20~30年である。
- ② 大規模な爆発が起こり火山体に放射状に割れ目が生じそこから多量の溶岩流が生じ裾野の町を埋めつくすこともある。

現在では79年大噴火のときに生じた火口は埋められて新しい火山体が生じており外輪山は北半部のみが残っている。ベスビオ火山の最近の大噴火は1944年に起こつた。火山観測所が1874年にヘルクラネウム側山腹に設けられており1906年の活動におけるペレット(PERRET)の報告が有名である。また火山自体についてリットマン(RITTMAN)の研究などがありマグマ溜りの深さを噴出物の捕獲岩から海面下約5kmと推定したことはよく知られている。